

苫小牧港利用促進協議会 マレーシアポートセールス 報告書



苫小牧港利用促進協議会

2020年1月

1.訪問目的

苫小牧港利用促進協議会では、2011年の中国・上海を皮切りに、2012年中国・大連、2013年 インドネシア・ジャカルタ、2014年ロシア極東地域(ウラジオストク、ナホトカ)、2015年ベトナム、2016年シンガポール、2017年度の台湾、2018年度のタイと海外でのポートセールスを実施してきた。

2019年度については、マレーシアにおいて、苫小牧港の知名度向上や利用促進を図り、更なる港勢拡大につなげるため、2019年11月19日(火)～23日(土)(移動日含む)までポートセールスを実施した。

2.苫小牧港利用促進協議会参加者

今年のポートセールス参加者は、下記のとおり(事務局含め全34名)。

なお、昨年に続き、会員外である苫小牧市役所、苫小牧民報社から各1名の参加があった。

<参加者名簿>

会社・団体名	役職	名前
苫小牧港管理組合	管理者	岩倉 博文
	専任副管理者	佐々木 秀郎
苫小牧市	産業経済部長	金谷 幸弘
ナラサキスタックス(株)	代表取締役 社長	須藤 哲也
	常務取締役	守屋 治
苫小牧栗林運輸(株)	代表取締役社長	栗林 秀光
	現業部 副部長	阿部 敬史
苫小牧港外貿コンテナ事業協同組合	専務理事	味村 康司
(株)栗林商会	運輸営業部 副部長	小池 一彰
日本通運(株)苫小牧支店	支店長	多田 圭介
	海運事業所海運課 係長	伊東 寛勝
苫小牧北倉港運(株)	常務取締役	関向 雅美
		羽川 由似子
苫小牧港開発(株)	代表取締役社長	関根 久修
	常務取締役ターミナル事業部長	飯村 豊
	ターミナル事業部技術管理課	及川 隆稀
	総務部 総務・広報課 秘書	山田 健祐
苫小牧埠頭(株)	代表取締役社長	橋本 哲実
	港運事業部国際業務課 担当課長	森 賢次
	港湾事業部 帯広支店 係長	長崎 義和
苫東コールセンター(株)	代表取締役社長	高橋 多華夫
(株)苫東	企画営業課長	石澤 卓也
苫小牧港木材振興(株)・苫小牧港湾振興会	代表取締役社長・会長	宮本 知治
苫小牧民報社	編集局報道部	伊藤 真史

苫小牧信用金庫	理事長	小林 一夫
苫港サービス株式会社	代表取締役社長	山口 英彦
北海運輸株式会社	代表取締役社長	福沢 優
株式会社北洋銀行苫小牧中央支店	執行役員支店長	鈴木 秀夫
北海道 ASEAN 事務所		折原 祐也
事務局 (苫小牧港管理組合)	施設部長	道脇 正則
	業務経営課長	白川 友秀
	港湾計画係長	京野 勇一
	政策推進課主事	和田 洸紀
	計画課主査	有澤 博文

3.訪問先・日程

訪問先及び日程については、下記の通り。

日次	月日	都市名	時刻	行程
1	11月19日 (火)	千歳 成田 マレーシア	6:50 7:55 11:15 18:10 19:00 21:00	新千歳空港国内線ターミナル 日本航空カウンター前集合 日本航空 JL3040 便にて成田空港へ (~9:35) 日本航空 JL723 便にてマレーシア空港へ ※以下、現地時刻(時差1時間) マレーシア空港着 市内にて食事(結団式) ホテル着
2	11月20日 (水)	マレーシア	8:00 9:30 13:00 14:00 16:00 19:00 20:30 20:30	ホテル発 ポートクラン港視察(~12:30) 市内レストランにて昼食 市内視察(王宮,独立広場等) ホテル着 苦小牧港セミナーin マレーシア セミナー終了 ホテル内にて直会
3	11月21日 (木)	マレーシア シンガポール	7:00 12:00 14:00 16:00 19:30 21:00	ホテル発 ジョホールバル付近にて昼食 タンジュンペラパス港視察 シンガポール入国手続き シンガポールにて夕食 ホテル着
4	11月22日 (金)	シンガポール	午前 14:00 18:00 20:15 22:25	自由行動 シンガポール港(パシールパンジャンターミナル)視察 市内レストランにて夕食 シンガポール空港着 日本航空 JL036 便にて羽田空港へ ※以下、日本時間
5	11月23日 (土)	羽田 千歳	5:55 7:30 9:00	羽田空港着 日本航空 JL503 便にて新千歳空港へ 新千歳空港着 解散

4.実施報告

順を追って、今回のポートセールスの結果についてレポートする。

4-1. 11月19日(火)

●新千歳→成田→マレーシアへ移動

06:50 新千歳空港に集合し、成田空港で乗り継ぎ後、マレーシアへ移動した。



新千歳空港にて岩倉会長（市長）挨拶



クアラルンプール国際空港



結団式会場到着



結団式



ホテルへ

●ホテルへ移動

21:00 結団式後、宿泊ホテルへ移動した。

4-2. 11月20日(水) ポートクラン港へ移動 8:00~

●Port Klang Authority (PKA) 9:30~11:30

クラン港を管理するPort Klang Authority (PKA) を訪問し、港の概要などの説明を受けた。



PKA 庁舎



岩倉会長（市長）挨拶



概要説明



会議室風景



記念品授与



バスにて西港コンテナターミナル視察へ



荷役風景 1



荷役風景 2

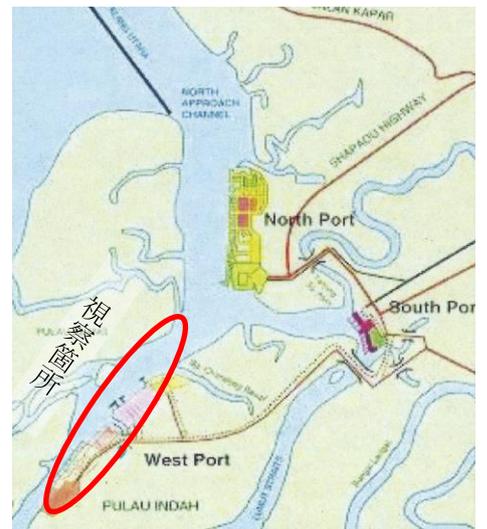


岸壁 (対岸にはマングローブ林)



コンテナヤード

●クラン港位置関係図



クラン港拡大図 (JICA 報告書出典)

〈相手方対応者〉

Capt.K.Subramaniam, General Manager, Port Klang Authority

Mr.Mohammed Shah Nas B. Mohamed Fawzi, Manager, Privatisation & Investment, Port Klang Authority

〈説明概要〉 PKA 会議室にて

- マレーシア国内の主な港は国直轄または州管理となっており、クラン港は国の直轄管理となっている。1900年の開港当初は、マレーシア鉄道局、その後1963年にスウェッテンハムオーソリティを経て、1972年に現在のPort Klang Authority (PKA) となった。
- 実際の港湾運営は完全民営化しており、主要業務は港湾計画・開発、規制・監視、資産管理、港湾振興などを担っている。日本の港湾運営会社によるコンテナターミナル運営より広い範囲で、港湾管理の民営化が実現している。
- 2018年のマレーシア国内のコンテナ取扱個数は約2,400万TEU、その内の約半分をクラン港で取り扱っており、2番目がタンジュンペラパス港の約900万TEUとなっている。
- 世界のコンテナ取扱量ランキングでは、クラン港は12番目、これまでの最高位は、2002年と2016年の11位である。
- クラン港のコンテナの取扱貨物量については、おおむね右肩上がりでも推移しており、2018年の取扱個数は約1,230万TEUとなっている。全体の約60%がトランシップコンテナ、残りの40%が国内向けとなっている。
- 2018年の入港船舶数14,550隻のうち7割以上の10,347隻がコンテナ船となっている。
- 2019年のコンテナ取扱量としては1,350万TEUが見込まれており、収容能力の拡大が必要となってくるため、西港のコンテナターミナル拡張計画により、現収容能力の1,400万TEUから3,000万TEUに増強する予定である。
- クルーズ船の誘致にも力を入れており、昨年の実績は210隻であった。
- 世界で最も混雑するマラッカ海峡に近接した恵まれた地理条件もあることから、基幹航路は約40、世界130カ国、600の港と繋がっている。

〈説明概要〉 西港コンテナターミナル現地視察

- 西港は、9つのコンテナターミナルから成り、総岸壁延長が5.8km、水深が15mから17.5m、岸壁数が20、ガントリークレーン67基を有しており、うち80%が日本の三井造船製となっている。
- クラン港の主要航路は、北アプローチ航路と南アプローチ航路があり、どの航路を使うかは入出港する船側の意向で決定される。
- 岸壁の対岸には広大なマングローブが広がり、港湾整備にあたり自然へのケアも考慮されている。干満差が大きいなどの自然条件もあってか、毎年航路維持浚渫が必要で、航路部分はポートクランオーソリティが、岸壁全面から50mの泊地についてはターミナルオペレーターの問題にて行われており、毎年かなりの事業費となっている。
- 西港ターミナル内の従業員数は約4,000人で、1/4がマネージメント業務担当、その他3/4が現場の作業員となっている。

●「苫小牧港セミナー in マレーシア」 19:00～20:30

「ルネッサンスクアラルンプールホテル」にて、「苫小牧港セミナー in マレーシア」を開催し、現地の海事関係者など58名の招待者が来場した。

セミナーでは、マレーシアと苫小牧港のつながりや、輸出拡大に向けた苫小牧港の取り組み、冷凍冷蔵倉庫の整備状況など利便性の高い苫小牧港について説明を行い、来場者にPRをいたしました。

また、会場内では、苫小牧の地酒「美苫」やお菓子「よいとまけ」等を振る舞い、現地参加者との交流を深めた。

<セミナー次第>

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
苫小牧港利用促進協議会 会長 苫小牧港管理組合
管理者 苫小牧市長 岩倉 博文
- 3 来賓挨拶
JETRO クアラルンプール事務所
所長 小野澤 麻衣 様
- 4 苫小牧港の概要説明
苫小牧港管理組合 総務部 港湾政策室 政策推進課 振興係
主事 和田 洸紀
- 5 乾杯
ナラサキスタックス(株) 代表取締役 須藤 哲也様
- 6 閉会の挨拶
苫小牧埠頭(株) 代表取締役社長 橋本 哲実様
- 7 閉会

<会場風景>



岩倉会長（市長）挨拶



JETRO クアラルンプール事務所 所長 小野澤様
来賓挨拶



和田主事概要説明



須藤代表取締役挨拶



橋本代表取締役社長挨拶



受付の様子



会場の様子1



会場の様子2



会場での苦小牧 PR ブース



セミナー終了（お見送り）

4-3. 11月21日(木) タンジュンペラパス港へ移動 7:00~

●Pelabuhan Tanjung Pelepas Sdn Bhd (PTP) 14:00~16:00

タンジュンペラパス港の港湾運営を行う Pelabuhan Tanjung Pelepas Sdn Bhd (PTP) を訪問し、港の概要などの説明を受けた。



PTP 庁舎



PTP 担当者挨拶



概要説明



質疑応答



記念品授与



概要説明 (車中)



車窓から見たターミナルの遠景



荷役風景 1

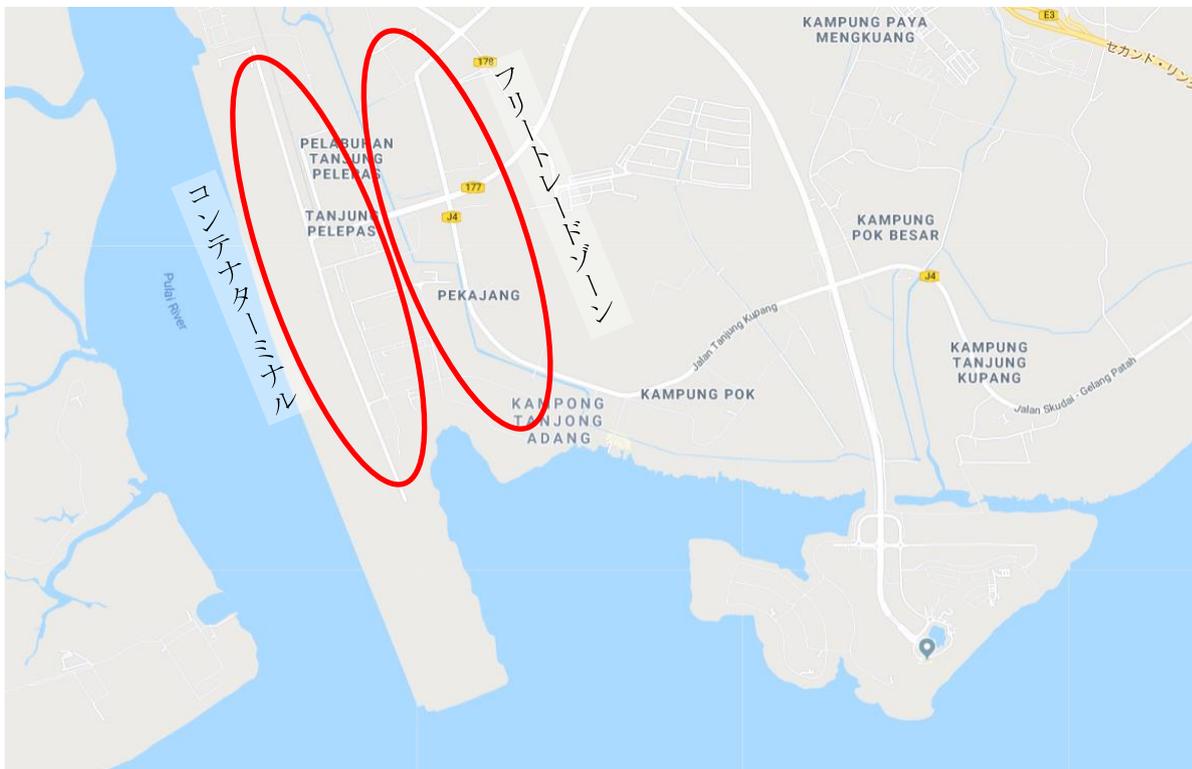


荷役風景 2



フリートレードゾーン内風景

●タンジュンペラパス港位置関係図



〈相手方対応者〉

Ms.Mohd Hazrik Bin Kamuruzaman, Corporate Officer, Johor Port Authority

Mr.Mohd Amir Hafiz Bin Ismail, Senior Executive Free Zone Development,

Pelabuhan Tanjung Pelepas Sdn Bhd

〈説明概要〉PTP 会議室

- 現在こそマレーシア国内でクラン港に次ぎ、第2の港湾となっているが元々漁村であった。1994年に国が開発を開始し2000年に開港した。
- 同港は国の機関 Johor Port Authority が管理しており、運営は民間企業の Pelabuhan Tanjung Pelepas Sdn Bhd (PTP) が行っている。
- タンジュン・ペラパス港はコンテナ船の運航船腹量(船の積載量)で世界最大を誇るデンマークの海運会社マースク社がいち早く世界拠点のひとつとして選択したことで注目を集め、また、エバーグリーン社等世界有数の海運会社に選ばれる港となっている。
- PTPは1995年から2055年までの60年間、国から土地の使用権を取得し、コンテナターミナルの整備・開発のほか、港湾運営に関する全ての業務を行っている。
- タンジュンペラパス港のコンテナターミナルは、岸壁数14、総延長約5km、ヤード収容能力は24万TEU、取扱能力は1,250万TEUで、2018年は896万TEUの取り扱いで世界18位、取り扱うコンテナの96%がトランシップコンテナである。
- コンテナ船は週100便以上が入港している。
- トランシップ貨物の半分以上がアジア圏であり、アジア圏の人口増加と経済成長が港の発展の鍵であると考えている。
- タンジュンペラパス港の特徴として、規模600haからなるフリートレードゾーンがあり、世界有数の企業が工場、倉庫を構えている。スポーツブランドのナイキ、プーマ、アディダス、また日本からは山九、ダイソー、バンダイ、京セラなどが進出しており、ゾーン内の従業員数は11,000人に上る。
- コンテナターミナルはフリートレードゾーンとほぼ直結しており、輸送の効率化・時短化によるコスト効率化が図られ、理想的な港湾運営が可能となっている。
- コンテナターミナル及びフリートレードゾーンに係る手続きは、全て電子化され、利用者が行う手続きの簡素化・時短化に貢献、さらに税関も24時間365日運営され、世界でも有数な先進的港の運営がなされている。
- 強力なライバル港であるシンガポール港とは、シンガポール港とタンジュンペラパス港間の入出港について、通常発生する港費について減免制度が設けられているなど、国をまたいでの連携体制も図られている。

●概要説明後、コンテナターミナル及びフリートレードゾーンの現地視察に行った。

4-4. 11月22日(金) シンガポール港パシールパンジャンターミナルへ移動 13:00~

●Port of Singapore Authority (PSA) 14:00~16:00

シンガポール港の港湾運営を行う Port of Singapore Authority (PSA) を訪問し、港の概要などの説明を受けた。



ビデオプレゼンテーション



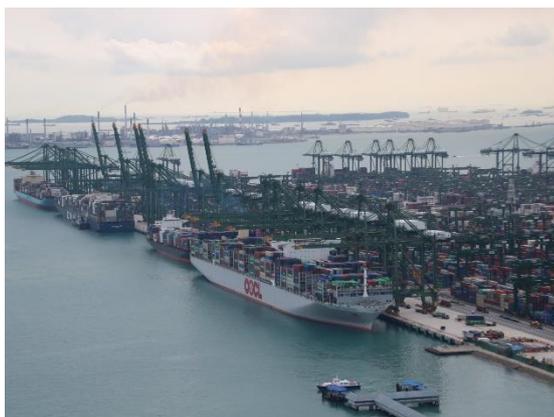
概要説明



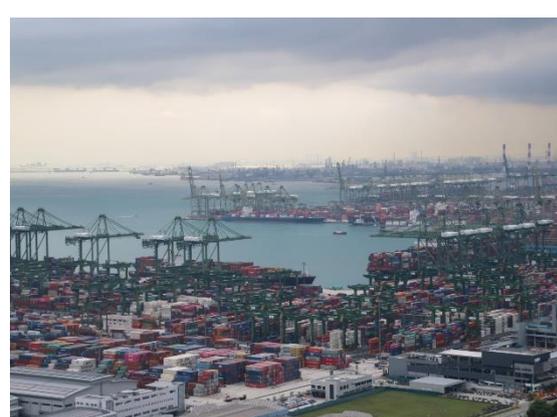
PSA ビルから見たターミナル1



PSA ビルから見たターミナル2



PSA ビルから見たターミナル3



PSA ビルから見たターミナル4



概要説明（車中）



トラックゲート



荷役風景1



荷役風景2



固定式トランスファークレーン



コンテナヤード

●シンガポール港位置関係図



〈相手方対応者〉

Ms.Carrie Cheong, Deputy Manager (Commercial) Commercial Department, Port of Singapore Authority,

細野幸男氏, General Manager Marine Superintendent Vessel Operations, Ocean Network Express Pte. Ltd.,

〈説明概要〉PSA ビル内、パシールパンジャンターミナルにて

○シンガポール港はマラッカ海峡の東南端に位置し、コンテナ取扱量世界第 2 位の港湾。アジア地域の中心的トランシップ港として、123 か国 600 の港と結ばれており、2018 年のコンテナ貨物取扱量は 3,660 万 TEU に達している。

○全ターミナルの運営は Port of Singapore Authority (PSA) が国から出資を受け行っている。

○シンガポール港の主要なコンテナターミナルは、タンジョンパガー、ケッペル、ブラニ、パシールパンジャンの 4 か所に位置しており、4 か所のターミナルは全長 16km の道路で接続されている。

○タンジョンパガー、ケッペル、ブラニは通常シティターミナルと呼ばれており、中心市街地に隣接している。

○シティターミナルの土地は PSA がシンガポール政府からリースしており、リース期間満了の年となる 2027 年以降、ターミナル用地は政府に返却され、都市的土地利用に転換される予定となっている。

○パシールパンジャンターミナルのリース期間は 2040 年で満了となっており、2040 年以降は現在建設を進めているトゥアスターミナルが本格稼働する予定である。

○現在シティターミナルとパシールパンジャンターミナルでのコンテナ取扱能力は 4,000 万 TEU であるが、将来トゥアスターミナルが本格稼働すれば 6,000 万 TEU まで取り扱い能力を増大させられる見込みである。

○今回見学しているパシールパンジャンターミナルは最大水深 16m のコンテナバースがあり、世界最大級のコンテナ船を収容できる設備を備えている。

○パシールパンジャンターミナルの入口ゲートでは、カメラによる遠隔セキュリティチェックが確立されており、トラックのナンバープレート、コンテナ番号、重量のチェック作業が行われ、それら一連作業はわずか 25 秒で完了する。

○ゲート通過後、そのコンテナ情報がクレーンオペレーターへ、トラックドライバーへは指定されたヤード情報が伝えられるという、オートメーション化が確立されており、ターミナルへのコンテナ搬入について、効率的な運営がなされている。

○パシールパンジャンターミナルには 250 を超えるガントリークレーンがあるが、そのうちの一部は既にオートメーション化されており、担当者のお話では、将来的にクレーンからトラックまでの積み替えすべてのオートメーション化を計画しているとのことである。

4-5. 11月22日(金)

●シンガポール→羽田→新千歳へ移動

シンガポール空港を 22:25 に出発し、11月23日(土)5:55 羽田空港着。羽田空港にて飛行機を乗り継ぎ、9:00 新千歳空港着し、5 日間の日程を終了した。

5. その他

ポートセールス期間中の風景（マレーシア）



ポートセールス期間中の風景（シンガポール）



苫小牧港利用促進協議会
マレーシアポートセールス報告書

苫小牧港利用促進協議会事務局
(苫小牧港管理組合総務部港湾政策室政策推進課)
TEL:0144-34-5905 FAX:0144-34-5559